

# 寺報みょうとく

浄土真宗本願寺派妙徳寺  
 (安芸教区志和組)  
 発行責任 大江了証  
 東広島市八本松町飯田六〇二  
 電話〇八二一四二八〇一四四



## 報恩講に向けてのお知らせ



### 寺院活動開催のための新型コロナウイルス拡大防止の方針について ～令和2年度志和組各寺院報恩講開催に向けて～

安芸教区志和組13カ寺

#### <趣旨>

私たち浄土真宗門徒が大切にしております「報恩講」が近づいてまいりました。

現在、地域の様々な活動・行事が、また本山別院・各寺の法座や行事も自粛あるいは短縮や中止などの判断をとっております。これらは感染症拡大防止のための措置ではありますが、一方で仏縁が遠のいてしまうことが危惧されます。

今後私たちの法座の機会を守り寺院活動を消極的なものにならないために志和組法中で協議、感染防止対策をとりながらより安全な法座を開催することを目的として、あらためて次の5点を志和組法中の方針としその上で報恩講について3点を申し合わせることにしました。

#### <志和組法中としての方針>

- [1] 手指の消毒設備の設置、マスクの着用依頼、室内の換気、飲食提供に対する配慮等、適切な感染防止対策を講じること
- [2] 3密(密閉・密集・密接)の状態にならないよう互いに配慮を心がけること
- [3] 大声での発声、歌唱とならないように配慮し、又は近接した距離での会話等を控えるように呼び掛けること
- [4] 参拝くださる方には事前の検温をお願いし、37.5℃以上ある場合は参拝を控えていただくようお願いすること
- [5] 相手の痛みを知る仏教徒として、感染者・医療福祉関係者やその家族などを誹謗・中傷・差別になる言動を厳に慎むこと

#### <今年度報恩講についての申し合わせ事項>

- ① 組行事として実施の「報恩講三寺参り」については中止、「お参りシート」配布はしないこと
- ② おとき(会食)の実施の可否については、事情により各寺院の判断によること
- ③ 組内全法中参加によるお参りはとりやめ、組内を3つに分けたブロック法中による勤めあいとすること

これらの内容をご留意いただき、ご理解ご協力の上ご安心して参拝いただきますよう慎んでお知らせいたします。今後も状況次第で協議し、新しい方針をお示しいたします。

令和2年9月

新型コロナウイルス感染症の拡大は急速に蔓延、あつという間に私たちのすぐそこにある感染症となつてしまいました。日々伝えられる報道に「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」と説かれた親鸞さまの願いと祈りを支えたいと思います。

今年も報恩講の時節となりました。毎年全国各地の浄土真宗門徒が欠かさずお勤めしてきた親鸞さまのご法事です。私たちの仏事の基本であつて、仏事の知識のみならず、心得や礼儀までも受け継ぐ場であつたのだ

と思います。大切にお勤めしなくてはなりません。しかし、地域の活動・行事、また各寺の法座や行事も自粛・中止、短縮などとなつています。いつまで続くかもしれないこの状況では、私たちが大切にしてきたたくさんのお勤め、引き継ぐことなげなれません。

以前のようにはいかないまでも、寺院活動が安心して再開できるための対策を近隣寺院と話し合い、別欄にあるような文書をまとめることができました。

### 私のへうれーカ

当寺が前寺報で掲載したものを更新することいたしました。これからも状況次第で新しい方針をお示しすることとなります。

親鸞さまの「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」との願いにかなうべく、このまま何もせずにはいられない、

皆様方におかれましても、いろんな場面で「わかつたぞ」と感じられたことがありと思います。このようなご経験をお知らせし、このように「へうれーカ」の情報を「へうれーカ」の情報として、寺報に掲載して内容が充実できればと考えています。浄土真宗の関係でなくても、日常生活に関することでも構いません。皆様方からの投稿をお待ちします。

今回は仏婦会長の西本さんに寄稿していただきました。

『挨拶』申し上げます  
 私は『仏教用語豆事典』(辻本敬順著 本願寺出版社)という本の内容から紹介したいと思います。

この本の書き始めに『現代文化もその奥をたずねてみると、仏教とかかわっているものが少なくありません。私たちがなげなく使っている日常用語の中にも、もともと仏教用語であったり、仏教の思想と深く結びついている語が多く見受けられる』とありま

私たちのできうることを一杯努め励ましていただきたいと思います。

報恩講終了後、護持会の今年度報告と来年度のお願いをお話しする時間を設けます。

ご参加お願いいたします。

その最初に掲載されてあつたのが『挨拶』です。とても身近な言葉なのに、意味するところは分らず使つていたように思います。

『挨拶は「押す」こと。挨拶は「せまる」という意味から、挨拶は、前にもあるものを押しつけて進み出ることをいいます』とありました。また『禅家では「挨拶」といって、師匠が門下の僧にまたは修行僧同士があるいは軽く、あるいは強く、言葉や動作で、その悟りの深淺を試すことがあります。これが挨拶なのです』ともありました。互いが心得を確認しあうという意味があつたのですね。びっくりしました。

この度初めて寄稿するにあたり、慎んで挨拶を申し上げます。

(文責 西本慶子)



## 行事予定

新型コロナウイルス感染リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすことといたします。ご注意ください。

十一月二十五日(水) 午後一時から

当山報恩講(おとりこ)

講師 山口県下関市本派布教使 寺田教昭師

十一月二十五日(水) 報恩講終了後

護持会報告会

十二月二十七日(日) 午後一時から二時

年末お掃除

大晦日 午後十一時半から

除夜会(じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半

修正会(しゅうしようえ)

一月七日(木) 午後一時、午後六時半

御正忌法要(おたんや)

講師 八本松町篠本派布教使 岡本法治師

# 原爆忌、追申

八月六日の原爆忌、朝八時から本堂でお参りをし、梵鐘を撞きました。みょうとくこども園に登園していた子どもたちも、鐘の音と先生に促されて手を合わせてくれました。

午後一時からはお盆のお参り、また今年初盆をお迎えになるご家族をお迎えしての追申会を併せてお勤めました。暑さ厳しくまたお忙しい中、十五家族もの皆さまにお越しいただくことができました。

自由にお会いすることがかなわれない中でお葬式をお勤めになられた方もおられ、「やつとお参りができた思いがしました」と皆さまの中には故人を懐かしみながら手を合わせてくださる方もおられました。

故人を敬い手を合わせるこの尊さ、家族だけではないつながりの場、こうした見落としされがちなことを大切にしたいものだと思います。

## 一語法話

『正信偈の十二光』④  
 普放無量無辺光  
 …一切群生蒙光照

阿彌陀仏はすべての人を救うためにどのような仏になられたのか？親鸞さまはその働きを『正信偈』で十二の光と示してお教えくださいます。それぞれどのような働きなのか、親鸞聖人の書かれたご和讃を通して味わう、今回はその四回目です。

④無対光  
 無対とは相対的なものではないということです。

清浄光明ならびなし  
 遇斯光の故なれば  
 一切の業繋ものぞこりぬ  
 畢竟依に帰命せよ

何がならぶものがないかと言いますと、「清浄光明ならびなし」と言われていますように、どんなに煩惱に穢れた者であっても、阿彌陀仏の働き一つでその心を浄化して下さるので、無対光と言われるのです。次に「遇斯光の故なれば」とは、遇斯光とは、斯の光に遇うということ、どんな穢れも浄化してしまふ阿彌陀仏の働きを受けたならば「一切の業繋ものぞこりぬ」、どんな悪業に繋がれている人でも、その業を断ち切つてくださるのです。

「私たちは自分の力で心を浄らかにしようとしてもどうにもならない悪業の鎖に繋がれている凡夫であります。でもこの仏はどんな悪業も断ち切つて浄らかにしてくださる無対光を發揮してくださいます。この並びなき究極の力をより所にして（畢竟依）、浄土への道を歩ませていただきますよ。」これが仏を無対光とお讃えされた親鸞さまのお心です。（次号へ続く）

編集後記  
 九月十二日に編集会議をしました。報恩講の頃にはどのような状況になっているだろうか、思いを巡らしながら文面を話し合いました。お参りでお会いできますことを楽しみにしております。（編集委員会）

「写経の会」開催予定日  
 10月 23日(金) 午後2時より  
 11月 27日(金) 午後2時より  
 12月 4日(金) 午後2時より

申し込みは 代表 西本さん(428-2466)、または妙徳寺へご連絡下さい。

「妙徳寺仏教壮年会例会」開催予定日  
 10月 10日(土) 午後7時から定例会  
 11月 14日(土) 午後7時より定例会  
 12月 12日(土) 午後7時より定例会 (寺報編集会議)

毎月第2土曜日午後7時開催を原則としています。

「生きていくための仏の教え 仏教基礎講座」  
 10月 10日(土) 午後2時より  
 11月 14日(土) 午後2時より  
 12月 12日(土) 午後2時より

申し込みは 代表 廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へご連絡下さい。

「おみのりサロン」開催予定日  
 11月 19日(木) 午後2時より1時間半 (『大乘』講読会と座談会など)

「お茶の会」開催予定日 (参加者募集中、ご連絡ください)  
 現在休止中、再開については電話かホームページでご確認ください。

## 『藝州賀茂郡飯田村 獨歩行』 竹本省三

総代の竹本さんに郷土の歴史についてのコラムをお願いしています。

あらためて郷土の歴史を知り、先人に思いを馳せながら読ませていただきます。

## 其の四 (江戸時代賀茂郡内の疫病)

今から百六十七年前、疫病流行で困窮した当地域の様子が書き綴られた記録がありますので紹介します。

## 口演之覚(県立文書館所蔵)

私義当五月中頃より計ずも病気に付き長々ヲゴリ相煩い、殊の外難義仕り困り入申し候、それに付き候ては抜群の物入り等も仕り候て

差奇り当暮れにて諸掛い方差問扱々行き当たり居り申し候に付き、止め去るを得ず去る方角へ御無心筋の義、貴所様迄御歎申し上げ候処、此義容易ならざる思召しされたく一応に御受込も遣わされ難く段、菟口申し上げ様も御座無く次第、しかしながら当時私の身上極難儀殊更諸葉代等も多分相滞り居り申し候訳ケ合再三罷り上り押して御歎申し上げ候て、漸く洪々御聞き留も成し遣わされ依て貴所様より助精筋の義、手厚く御内通成し下され候由の処、是迄誠に時飽かず御迷惑を相懸け居り申候、事故忌期際限無く思召しめされ一切御聞き入も御座無く趣、是を以て御尤千万の御義、恐れ入り居り候義に御座候、然る

処貴所様格外の御憐愍を以て種々御手を盡され別して御苦勞御配意成し下され約る処、此の度の義は貴所様へ對なされ候て当度限り漸く御助精成し遣わされ候趣、差し向かい急難を相凌ぎ重々有難く仕合せ誠に冥加至極存じ上げ奉り候、是と申も偏に貴所様格外御配意の御蔭と恭儀奉り候、然る上は、御來私其心得方の義、御心切に厚く御教導成し下され候趣、委細一々畏み奉り候、誠に斯る必至の場合、御助け成し下され候上はたとひ以後いかに躰の義出来湧き又は病氣渴命におよひ程の義御座候とも此の余老銭の事たりとも御無心筋の義は曾て申し上げず其段、左様思召しされたく候、御先方へも貴所様手堅く御受合い置き遣わされる

文中のヲゴリとは熱が乱高下する疫病でマラリアを示します。人名・屋号は、個人情報保護の為、○で表しています。

○屋孝太郎様  
 嘉永六年丑十二月 ○助

敢えて書かなかつたこと、下位の者を奉って貴所様と書いてること、上位者の字を大きく下位者を小さく書くのが慣わしですが同じ大きさで書いてること、礼を尽くした慇懃な文章であること、以上四つの点で考察すると借主の品格はもとより困窮極まった心情を讀取るべきかと考えます。借金額は現在の貨幣価値で八百万円です。返済証文はありませんが、当時の慣例に則り棒引きされたものと推測されます。

「百姓階級」にも権威の構成が存在したことが読み取れます。



(次号へ続く)

**妙徳寺ホームページ**  
<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>  
 ホームページ内で行事予定を随時更新しています



**合同墓・墓地案内**  
 有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。たくさんのお方にご利用いただけます。

**志和組テレホン法話「みのりの電話」**  
 433-4989 (しじゅうさんざん、しくはっく)

10月 1日	八本松南	玉田義幸
10月 11日	西方寺	安國真雄
10月 21日	光源寺	堀靖史
11月 1日	寿福寺	田中幸恵
11月 11日	長松寺	中田輝道
11月 21日	西蓮寺	西浦憲雄
12月 1日	妙徳寺	大江了証
12月 11日	志和東	石川了真
12月 21日	寿福寺	田中一乘

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。